

Jeep 13R 125.124

取扱説明書

まえがき

このたびはジープをお買上げ下さいましてありがとうございます。
 ジープは弊社の伝統ある技術と最新の設備と厳密な管理のもとに製作いたしましたので、ご使用の皆様にご満足いただけるものと確信いたしております。
 この取扱説明書は、あなたのお車を常に最良の状態でご使用いただくために取扱い上の説明と簡単な手入れなどについてJ3R形を主体に説明し、その他の車種については異なる点のみ記載してあります。
 ご使用前に一読願い、お便になる上の指針となれば幸いです。
 無償サービス、定期点検については、別冊の「サービス・ハンドブック」をご参照ください。
 ジープの各地販売店、サービス工場では、十分な設備と優れたサービスマンが皆様のおいでをお待ちいたしております。
 ご不審な点、お気付の点は何なりと申しつけください。



目 次

1. 新車のうちは	1
2. 各部の取扱い	2
○キーの種類	2
○ドア	2
○シート	3
○運転席	5
○ラジオ	11
○ヒータおよびベンチレータ	12
○換気装置	14
3. 出発前の点検	17
4. エンジンの始動および運転	21
4.1 エンジンの始動	21
4.2 走行および変速	22
4.3 前後駆動の使い方	22
4.4 エンジンの停止	23
5. セルフ サービスの方法	24
5.1 とう工工具	24
5.2 タイヤの交換	25
5.3 給油	26
5.4 幌およびテールゲートの取りはずし	30
5.5 点検手入れ	32
5.6 ランプの調整、交換	43
6. 故障が起きた時には	47
7. オプション パーツ	56
8. 仕様	57
9. 給油	折込
10. 電気配線図	折込

1. 新車のうちは

あなたのお車の性能と寿命は新車時の取扱い方いかんにかんがわれますので、次のことがらに十分注意してください。

○新車のサービス

当社では新車に、無償定期サービスを実施しております。別冊「サービスハンドブック」をご持参の上、三菱自販の特約販売店または、その指定サービス工場に所定の点検整備をお申し付けください。



○新車の取扱い

最初の 1,000km 走行まではならし運転です。各部を円滑になじませ、いつでも高性能を保つために、特に次の事項に注意してください。

- エンジン始動後はしばらく暖期運転（ウォーミングアップ）を執行してください。特に冬の暖期運転は長めにしてください。
 - エンジンの「空ふかし」はやめてください。
 - 過積載はさけてください。
- 荷物の積みすぎは新車の時に限らず、車の寿命を縮め思わぬ故障や事故の原因となります。
- 急発進、急加速、急停車はさけてください。
 - スピードに応じたギヤチェンジをお守りください。
 - 悪路での走行はスピードを落してゆっくり走ってください。
 - 新車 1,000km までは 60km/h 以上ださないようにしてください。
 - 新車時のオイル交換、給油は平めに行ってください。

■ オイルの交換は走行後オイルが暖かいうちに完全に排出してからおこないます。

2. 各部の取扱い

○キーの種類



A: イグニッション キー
(J3B, J52形)

イグニッションスイッチ
ヒュエルタンク



B: スタータ スイッチ キー (J54形)
スタータ スイッチ



C: スペア キー (J54形)
ヒュエルタンク



D: アンテナ キー

○ドア



ドアの開閉
ハンドルを上方に回すとドアが開きます。
閉じたときはハンドルを確実にかけてください。

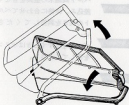
○シート

・ドライバ シート



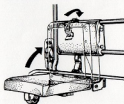
ドライバ シートは 工具箱の上にあり
工具を出入れするときは前方に倒して
ください。

・パセンジャ シート



後部座席への乗降には、シートを折たた
み更に前に倒します。

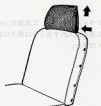
・リヤ シート



リヤ シートの折りたたみは、シート
を持ち上げて、シート下側のフックを
シート バックに かけてください。

図 2人乗車の場合は250kgまで荷物が
つめます。過積載をすると車の寿命に影
響しますのでご注意ください。

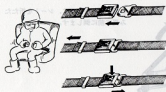
・ヘッドレスト



高さは3段に調整できます。身長に合わせてお好みの位置にセットしてください。

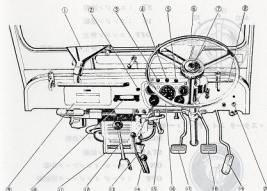
ヘッドレストを高くするときはヘッドレストを前に引きながら上げます。また逆に低くするときはヘッドレストを前に引きながら押込みます。

・セフティベルト



ベルト両端の金具を合せて差込み。体幹に合わせてベルトの長さを調整してください。ベルトをはずすときはボタンを押してください。

○運転席



- ① デフロスターノズル
- ② 燃料増量ボタン (ディーゼル車のみ)
- ③ スロットルコントローラーボタン (ストップコントローラーボタン)
- ④ ハンドランプ
- ⑤ チュークコントロールボタン (ヒュエルコントロールボタン)
- ⑥ ステアリングホイール
- ⑦ ホーンボタン
- ⑧ レバースイッチ
- ⑨ グローブボックス
- ⑩ オートラジオ

- ⑪ カーシート
- ⑫ シフトレバー
- ⑬ フロントアクセル・ドライビングシフトレバー
- ⑭ アシッド・ドライビングシフトレバー
- ⑮ ハンドブレーキレバー
- ⑯ インストルメントパネル
- ⑰ クラッチペダル
- ⑱ ブレーキペダル
- ⑲ アクセルペダル
- ⑳ イグニッションスイッチ (スタータースイッチ)

図 () 内はディーゼル車を示す。

・イグニション スイッチ (ガソリン車)



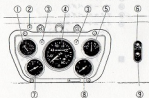
- ST : エンジン始動
- ID : エンジン運転
- OFF : エンジン停止
- ACC : エンジン停止中ラジオ使用

・スタータ スイッチ (ディーゼル車)



- HEAT : グロー プラグ加熱
- START : エンジン始動
- ON : ゲージ インジケータ作動
- OFF : ゲージ インジケータ回路断

・コンビネーション メータ



- ① ヒュエル ゲージ
- ② ハイビーム インジケータ
- ③ ターンシグナル インジケータ ランプ
- ④ スピードメータ
- ⑤ アンメータ
- ⑥ ブレーキ インジケータ
- ⑦ オイル プレッチャ ゲージ
- ⑧ テンペレチャ ゲージ
- ⑨ オイル フィルタ ワARNING ランプ

・インジケータ ランプ



ブレーキ インジケータ
イグニション スイッチ「ON」でハンド ブレーキが引いてあれば点灯します。
またフット ブレーキ関係に故障が生じた場合は 点灯します。



オイル フィルタ ワARNING ランプ (J52, J54形のみ)
オイル フィルタ エLEMENTが汚損し、ろ過性能が劣化した場合に点灯します。



ターン シグナル インジケータ ランプ
ターン シグナル ランプ点滅により作動、ハザード スイッチ「ON」で左右とも作動します。



ハイビーム インジケータ
ヘッド ランプ上向きで点灯します。

・ヒュエル ゲージ



イグニション スイッチを「ON」にすると、タンク内のガソリン量を指示します。

- F : 満 量 (45ℓ)
- E : 補給が必要です。(残量 約1~1.5ℓ)

■ F, E, 以外の指示目盛は油量に対しての残量を示しております。

・アン メータ



ゼネレータよりバッテリーに充電されているときは指針が(4)に振れランプなどの負荷により放電されているときは(1)に振れます。

■ 1. スタータリング モータの消費電流はアンメータに示されません。

・テンペレーチャ ゲージ

エンジンの冷却水温度を示します。エンジン運転中指針が 75~95°C を示せば良好です。



・オイル プレSSH ゲージ

エンジン オイルの圧力を示します。
エンジン無負荷最高回転時 3.5~5.5kg/cm
エンジンアイドリング時 1.5kg/cm以上
であれば良好です。



・スピード メータ

車の走行速度を km/h で示し、全走行距離をトータルカウンタに km で表わします。



・ライティング スイッチ (パーキング スイッチ付)

2 段引出式で 1 段目で両幕先行
2 段目で夜間走行を行なってください。

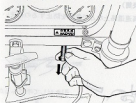


	ヘッドランプ	サイドランプ	テールランプ	ブレーキランプ
1 段目	○	○	○	○
2 段目	○	○	○	○

パーキング ランプを点灯するときはライティング スイッチを押込んだ状態「OFF」でノブを右に回してください。

夜間路上駐車を行なうとき使用します。

・ハザード スイッチ (非常警告灯)

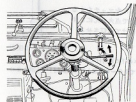


スイッチを引くとフロントおよびリアのターン シグナル ランプが同時に点滅します。

車両の故障パンクなど緊急時に使用します。

※ パーキング ランプおよびハザード ランプを長時間点灯しておくとはバッテリーの電量が低下し始動困難を招く恐れがあります。日常の保守点検にご注意ください。

・レバー スイッチ



ターン シグナル スイッチ とデマー スイッチと兼用になっています。

レバーを上には動かせば左のランプが点滅し、下には動かせば右のランプが点滅します。

レバーを引き上げるとヘッドランプが切替ります。

・ワイパ ワッシャー スイッチ



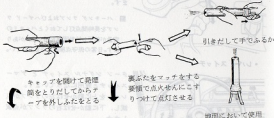
2段引出式で1段目で低速、2段目で高速となります。雨量に応じて使い分けてください。

ウインド ワッシャーはどの位置でも右に回せば作動いたします。

- (1) ウインド ワッシャーは20秒以上の連続使用は避けてください。
 - (2) ワッシャー液がないときは10秒以上使用しないでください。
 - (3) ウインド ワッシャー液は 純正品をご使用ください。
- 液量は 1 (夏) : 2 (水) の割合で使用しますが冬期は半量にしてください。

・エマージェンシ フレヤ (非常用発光器)

踏切上で列車や電車に対して、高速道路上などで危険を防止するのに使います。



- (1) 発光器は、ダロップ ボックスの下に取付けてあります。
- (2) 発光器は鮮明な青色光を出して5分〜6分燃え続け使用下でも消えません。

○ラジオ



操作

イグニッション スイッチを「ON」または「A.C.O.」で操作します。

- A: ラジオ スイッチを押す。
- B: 音量 (VOL) を合せる。
- C: 音質 (TONE) を合せる。
- D: 選局 セットされた局を自動的に選局します。
- E: 選局 適量などでセットした局以外を選局する場合使用。

・プッシュ ボタンのセット



セットしようと思うボタンを手前に引き出す。

ノブを回してセットしようと思う放送局に同調させる。

プッシュ ボタン を強く押し込んでセットを完了する。

・アンテナ



○ヒータおよびベンチレータ



図 1 ヒータおよびベンチレータ



II (OFF) I (HI) OFF

・カー ヒータ

カー ヒータは エンジン冷却水を利用した温水式で室内暖房とウィンドガラスのくもり止めを行なうことができます。

ヒータは冷却水を十分温めてから使用した方が効果があります。

・ヒータ ファン スイッチ

2 段引出式で 1 段目で強 (HI)、2 段目で弱 (LO) と風量が切換えられます。適宜使い分けてください。



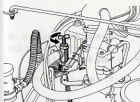
・ルーム デフロスタ チェンジ ノブ

暖房で足もとを暖めるときはノブを押込みます。

ウィンドのくもり止めを行なうときはノブを引いてください。

図 (1) 以上操作要領は ヒータ ユニットに貼付けたラベルに記載しております。

図 (2) ヒータを使用するときはベンチレータを完全に閉じてください。



・シーズン バルブ

冬期を過ぎヒータを使用する時期になったらバルブをいっばい開いてください。

また暖かくなりヒータの必要がなくなったときは閉めてください。



・ベンチレータ

3 段階に調整できます。開けるときはレバーを持上げて押してください。



○操縦装置

・トランスミッション シフト レバー



フロア中央部に取付けられている一番長いレバーでシフト パターンの区別が容易です。

図 2、3 速はシンクロメッシュ式です。

・フロント ドライビング シフト レバー

中央のレバーを図のように操作することによって、前後駆動の切替を行います。

図 普通走行時は前輪駆動を使用しないでください。

・アンゲ ドライビング シフト レバー

一番短いレバーを図のように操作します。普通走行時は低速に、大きな力が必要とするときは低速に入れます。

図 レバーを低速に入れるときは フロント ドライビング シフト レバーを前輪駆動の位置にしてから操作してください。

・チョーク コントロール ノブ (ガソリン車)



ノブを引き出すとキャブレータのチョークバルブが開き、濃い混合ガスとなります。寒冷時のエンジン始動の際に使用します。

・スロットル コントロール ノブ (ガソリン車)



ボタンを引き出すとキャブレータのスロットルバルブが開き、エンジンの回転が上がり、作業機取付け車のエンジン駆動に使用します。

・ヒュエル コントロール ボタン (ディーゼル車)



寒冷時の暖気運転などに使用します。ノブを左に回すとエンジンの回転が上がり、右に回すと下がります。

・ストップ ボタン (ディーゼル車)



ボタンをいっぱい引けば燃料が無噴射状態となりエンジンが停止します。

図 エンジンが完全に停止するまでノブを戻さないでください。

・燃料増量ボタン (ディーゼル車)



寒冷時のエンジン始動の際に使用します。

○其の他

・エンジンフード



エンジンフードを開くときは運転席右側のノブを引くとロックがはずれます。



車の前に回りフード左右のキャッチをはずし上方に開きます。

・ガソリンの補給



燃料補給はバセンジャースト、左側の給油口から行ないます。開錠はロックキーを左に回します。

・灰皿



灰皿の取りはずしは中央のスプリングリチアチを押えながら引き抜きます。

3. 出発前の点検

お出かけの前には特につぎの点検をし、お車をいつも調子よく安心して使うようにしましょう。

■ 出発前の点検は法令で義務づけられています。

・タイヤ



タイヤの空気圧、損傷、摩耗具合などを点検しましょう。

空気圧 単位 kg/cm²

		単位	kg/cm ²
一般走行	前		1.2~1.5
	後		1.2~2.0
高速走行	前		1.5~1.7
	後		1.5~2.3

■ 空気圧はフロント・ウィンド・シールド右側のラベルに記載されています。空気圧が正しく調整されていないと走行時のふたつき、タイヤの磨耗等を早めますので十分注意ください。

・エンジンオイル



エンジンオイルはレベルゲージのアップ・レベルとセワール・レベルの間にあれば良好です。

J3R形



オイル規定量 4.7ℓ
(含オイルフィルター 0.9ℓ)

J52形



オイル規定量 6.8ℓ
(含オイルフィルター 0.8ℓ)

J54形

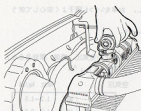


オイル規定量 5.5ℓ
(含オイルフィルター 0.8ℓ)

J52形

J54形

・冷却水



冷却水は常にラジエタ上10cm以上あれば良好です。

冷却水容量

単位: L

車種	容量
J34形	10
J52, J54形	8

■ 水温が高い場合は急にキャップを開けるとなく、一旦蒸気を逃がしてからあけて下さい。蒸気コンプレッサーの混合の時にエンジンオイルも混入し、エンジンオイルの劣化を招く恐れがあります。

・ブレーキおよびクラッチ オイル



・ブレーキ クラッチ



ブレーキ ペダルおよびクラッチ ペダルの遊び、踏みごたえ、ハンド ブレーキの引き代を点検します。

ブレーキ ペダルの遊び: 10~15mm

クラッチ ペダルの遊び: 40~45mm

ハンド ブレーキの引き代: 60mm

以内

対点の諸発出

・ステアリング ホイール

対点の諸発出

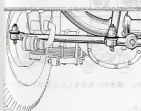
ステアリング ホイールを 軽く左右に回わして動く範囲 (遊び) を確認します。また同時にホイールのガタを点検します。



ステアリング ホイールの遊び

25 mm 以下

・ステアリング リンケージの点検



ビットマン アーム・タイロッド・ドフラッド インター・ベル グラフタなどの締付け状態を点検しゆるんでいるものまたは ユーター ベルの取付け不良のものは増締めまたは修正します。

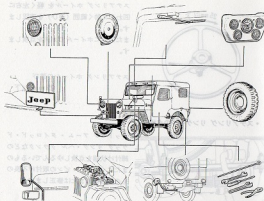
・バッテリー液量の点検



バッテリーの液量を点検し不足の場合は蒸留水を補充します。液量は アップ ロウ レベル間 にあれば良好です。

■ J54形 は液板上 5~20mm 程度に保ってください。

・その他の点検



- ・車の姿勢を点検し異状はありませんか。傾きがいちいちしいときはスプリングを点検しましょう。
- ・ファンベルトのゆるみはありませんか。
- ・各ランプ・タンパ ブレートおよびリフレクタはよごれていませんか。
- ・各ランプの点灯またホーン、ワイパ、ターニングランプの作動は良好ですか。
- ・各計器は正常に作動していますか。同時にミューエールゲージで燃料の量も確認してください。
- ・シートベルトのかかり具合および損傷を点検しましょう。
- ・ドアの締め具合、ドアロックに異常はありませんか。
- ・各部の水漏れ、油漏れ。ガソリン漏れはありませんか。
- ・エンジンのかかり具合、異音、排気の状態は正常ですか。
- ・スベアタイヤの空気圧、格納状態は正常ですか。
- ・とう工工具はお持ちになりましたか。
- ・エマージェンシ フレア（非常用発光灯）はお持ちになりましたか。
- ・前日走行中発見した不具合個所の修理は終了しましたか。

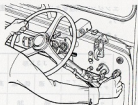
4. エンジンの始動および運転

4.1 エンジンの始動

1. ガソリン車

出発前の点検が終了しましたら、つぎの要領で エンジンを始動してください。

- ・ハンド ブレーキを引いていることを確認します。
- ・トランスミッション シフトレバーを中立の位置にし、トランスファ コントルール レバーは2輪高速の位置にしておきます。
- ・クラッチ ペダルを踏込みます。
- ・アクセル ペダルを少し踏込んだ状態で キーを右にいっぱい回すと エンジンは始動します。
- ・寒冷時の始動には、チョーク ボタンを引いてください。
- ・エンジン始動後は、エンジンの調子に合わせて逐次チョーク ボタンを戻し、しばらく暖気運転を行なってください。
- ・エンジンが暖ったら必ずチョーク ボタンをいっぱい押込んでおきましょう。



■ エンジンが始動しない場合はスターティング モータの連続使用は避け一旦休んで10〜20秒のちに再び始動してください。

2. ディーゼル車

ディーゼル車の始動はつぎのごとく行ないます。

- ・スタータ スイッチを「HEAT」の位置にしグロー プラグ イジヤータが赤熱するまで（約25秒）待ちます。
- ・クラッチ ペダルを十分踏込むと同時にキーを「START」の位置へいっぱい回してください。
- ・完全に始動したならばキーから手を離すと同時にアクセル ペダルをアイドリングの位置まで徐々に戻します。

- エンジンが冷えているときは、燃料増量ボタンをいっぱい引けば始動が容易になります。

始動後は直ちにボタンを押込んでください。

- ④ (1) 発動時にはドロー アフタは30〜40秒程度を過ぎて十分予熱し完全な着火点となるようにしてください。
なお失敗した場合でもスタータを回す前に必ず予熱することを忘れないでください。
(2) 運転中にキーを「OFF」の位置にするとき電装回路が切れますから「ON」のままだにしてください。

4.2 走行および変速

エンジンに無理をさせないよう、車速に応じて変速はすみやかに行ないましょう。

- 各変速位置の最高速度

単位: km/h

車 種		J 3 車 形		J 32 形		J 54 形	
トランスファークラッチ位置		高 速	低 速	高 速	低 速	高 速	低 速
トランスミッション	3 速	96	38	115	43	92	37
	2 速	64	26	70	27	59	24
	1 速	34	14	39	15	32	13
	後 進	26	10	28	11	24	9

4.3 前輪駆動の使い方

前輪駆動はジープの最も大きな特徴の一つですから、十分にご利用下さい。トランスミッションとトランスファークラッチの両方を使って前進6段、後退2段の変速と2輪または4輪駆動が出来ます。これらの活用によって悪路、砂地、不整地などいかなる悪条件でも容易に走破することが出来ます。

トランスファークラッチ・レバーでは、トランスファークラッチでの2段変速(高速・低速)と同時に前輪駆動の換、新を行ない、しかもどの位置でもトランスミッション・シフト・レバーは通常通りに3段の変速が可能です。路面での状況やけん引物の重さなどに応じて適当に操作して下さい。

- 平地走行の場合

一般道路を走行する場合は必ず2輪高速位置で運転して下さい。

- 4輪駆動の使用

フロント・アクセル・ドライブ・シフト・レバー操作はクラッチを切って(後)の方向に倒します。

- 4輪駆動のまま高低速の切換

高速より低速へ切換える場合はクラッチを切り、アング ドライビング シフト・レバーをニュートラルに戻し、クラッチペダルを離しエンジンを加速した後、再度クラッチペダルを踏み、アング ドライビング シフト・レバーを低速に入れます。

低速より高速への切換える場合は速度に関係なくクラッチを切りアング ドライビング シフト・レバーを高速側に入れて下さい。

- ④ レバー位置N(中立位置)で走行することはできません。これはパーク・ブレイクを使用する場合に用います。



4.4 エンジンの停止

- ガソリン車

イグニッション スイッチ キーを「OFF」の位置に戻すとエンジンは停止します。

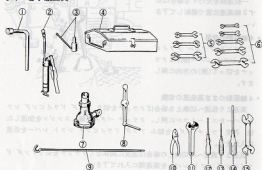
- ディーゼル車

- ストップ コントロール ボタンをエンジンが停止するまで十分に引いてください。
- エンジンが停止したらボタンをいっぱい押込んでおきます。
- スタータ スイッチを「OFF」にしてください。

5. セルフ サービスの方法

定期手入れは法令で規定されております。点検箇所、時期については「サービスハンドブック」をご参照ください。

5.1 とう工工具



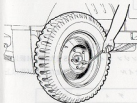
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ① ホイール ナット レンチ | ⑩ ジャッキ ハンドル ジョイント |
| ② グラス ガン | ⑪ プライヤ |
| ③ アラダ レンチ (ボソソソ) | ⑫ ホンキ レンチ |
| ④ グロー アラダ レンチ (ディーゼル車) | ⑬ スクリュー ドライバ (H) |
| ⑤ ツール ボックス | ⑭ スクリュー ドライバ 75mm (-) |
| ⑥ スパナ ヌット (インチ サイズ) | ⑮ スクリュー ドライバ 150mm (-) |
| ⑦ スパナ ヌット (ミリ サイズ) | ⑯ スパナ 26×29mm (ディーゼル車のみ) |
| ⑧ スクリュー ジャッキ | |

⑧ とう工工具はバセンジャ シート下のツール ボックスに収められています。

5.2 タイヤの交換



• スペア タイヤは 車体後方のブラケットに3コのナットで取付けられております。取りはずしは ホイール レンチでナットをゆるめ スペア タイヤをはずします。



• ホイール ナット レンチでホイール ナットをゆるめます。

⑧ ホイール ナットは 右側車輪は右ねじ左側には左ねじが使用されております。



• ジャッキをスプリング シート の下にあって車体を上げます。

⑧ ジャッキを使用するときは必ずハンドブレーキ をいっぱい引いてください。



• 空きにゆるめた ホイール ナットをはずしタイヤを交換してからナットを仮締めします。つぎにジャッキを降して ホイール ナットを固のごとく交互に締め付けます。

⑧ ホイール ナットの 締め付けトルクは 8.5~10.0kgmです。

5.3 給油部



●使用オイル。

オイルは純正品を気温に応じて使い分けてください。

ガソリン車：ダイヤ クリーン エンジン オイル

ディーゼル車：ふそうエンジン オイル

MSまたはDM級以上

DGまたはDM級以上

ガソリン車		ディーゼル車	
気温	粘度	気温	粘度
25°C以上	SAE30	0°C以上	SAE40
10°~25°C	SAE20 または 130	-5°~0°C	SAE30
0°~10°C	SAE20W	-15°~-5°C	SAE20
0°C以下	SAE10W-30	-15°C以下	SAE10W-30

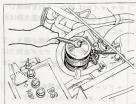
●エンジン オイル量。

車種	容量
J3R形 (ガソリン車)	4.5ℓ (含オイルフィルター量 0.9ℓ)
J52形 (ガソリン車)	6.8ℓ (" 0.8ℓ)
J54形 (ディーゼル車)	5.5ℓ (" 0.8ℓ)

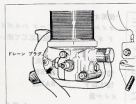
給油の注意事項

- エンジンを暖気運転した後、オイルパンのドレイン プラグを取りはずし古いオイルを完全に排出します。
- ドレイン プラグを締め、注油口より新しいオイルを レベル ゲージまで注入します。
- エンジン運転後 再度レベル ゲージでオイルを確認してください。

○オイル フィルタ エLEMENTの交換

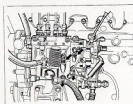


オイル フィルタ ケース上部のボルトをゆるめてキャップを取りはずした後、ELEMENTを上方に抜き出します。交換に際してはオイル フィルタ ケース内面を清掃してください。



なお、ディーゼル車は オイル フィルタ下部のドレイン プラグをゆるめ オイルを排出したのち上記要領でELEMENTを交換します。

○インジェクション ポンプ オイルの交換

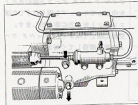


インジェクション ポンプのカム室およびカバナ室のドレイン プラグを取りはずし古いオイルを完全に排出した後、オイルをレベル ゲージの上の刻印まで注入します。

油量 カム室：80cc
カバナ室：170cc

■ 使用オイルは エンジン オイルと同じものを使用してください。

○トランスミッションおよびトランスファ ケース オイル交換



ダイヤ オイルは 両ケース内を循環して
おりますが、給油、排油、油量点検は別
々にこなしてください。

- ・オイル交換は走行後内部が暖まっ
ているとき、ドレイン プラグを取りは
ずし古いオイルを完全に 排出しま
す。
- ・ドレイン プラグを締め 進入口まで
新しいオイルを入れてください。

・使用オイル

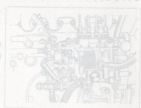
オイルはダイヤ クリーン ハイボイ
ド ガヤ オイルを気温に応じて使い
分けてください。

気 温	粘 度
10°C以上	SAE90
10°C以下	SAE80

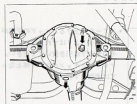
オイル量

トランスミッション	1.42ℓ
トランスファ ケース	1.66ℓ

本文のイラストを参照してください。



○ディファレンシャル ケース オイル交換



- ・トランスミッション オイル 同様内
部が暖った状態で、下部ドレイン、コ
ックを取りはずし古いオイルを排出
します。

- ・ドレイン プラグを締め 注油口まで
新しいオイルを入れてください。

・使用オイル

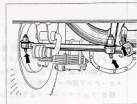
ダイヤ クリーン ハイボイド 両ヤ
オイル

気 温	粘 度
10°C以上	SAE90
10°C以下	SAE80

オイル量

フロント	0.76ℓ
リ ヤ	1.19ℓ

○シャシ各部の給油



ステアリング ランゲージの 各ボール
ジョイント部および プロペラ シャフ
ト ユニバーサ ジョイントのグリース
ニップルより定期的にグリースを給油
します。

・使用グリース

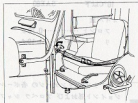
ダイヤクリーン マルチ パーパス
グリース

5.4 幌およびテール ゲートの取りはずし

○ドアの取りはずし

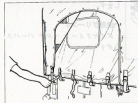


- ・ドアを上げるとロッドの下部がブacketよりはずれます。そのまま下に引き抜いてください。フレームとキャンパスが一体とならずはずれます。



- ・ドアを取りはずして走行するときは必ずセフティベルトを掛けましょう。

○リヤ および サイド クォータ カーテンの取りはずし



- ・デッキ トップのホック(11カ所)をはずし、テールゲートバンド(4カ所)を解けば取りはずしができます。
- ・カーテン下部のバンドを(4カ所)解き フットマンループよりはずします。
- ・カーテン上部およびリヤ トップのホック(7カ所)をはずします。
- ・カーテン前部のロッド締付けボルト2本をゆるめて サイドカーテンを取りはずします。

○トップ (天上) の取りはずし



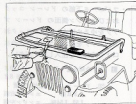
- ・リヤ クォータ カーテンを取りはずし、つぎに左、右カーテン下部のストラップをフットマンループよりはずします。
- ・サイド クォータ カーテン上部の結合ホック、後部トップボー 取付けホックをはずします。
- ・左右フロント サイドレールよりホックをはずし、リヤシートバックアセンブリをトップボーよりはずします。
- ・トップを後部より持ち上げながら逐次車の前方に取りはずし、最後にウィンドシールド上部リナより引抜きます。

○トップ ボーの取りはずし



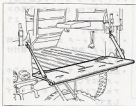
- ・ウィンドシールド上側とフロントトップボーの間にある左右 サイドレールをはずします。
- ・左右 リヤ サイドカーテンロッドをはずします。
- ・リヤ トップボーのボデー側取付けステーをはずします。
- ・フロントリヤトップボーを上方に引抜きます。

○ウィンドシールド



- ・ウィンドシールドを倒すときは、トップボーをはずした後、つぎの順序で行なってください。
- ・デフロスタノズルとタクトの後視をはずします。
- ・インストルメントパネル 左右のウィンドシールド固定用キャッチをはずします。
- ・ウィンドシールドを前に倒し、フットマンループにバンドで固定します。

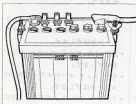
○テール ゲート



- ・テールゲートを開くときは、スベアタイヤブラケットを下に倒した後、ゲート左右のフックをはずしてゲートを後方に倒し、チェーンフックで支えます。

5.5 点検手入れ

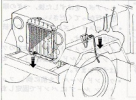
○バッテリーの点検



- ・バッテリーの液を点検し不足の場合蒸留水を補給します。液はアップローレベル間にあれば良好です。同時にターミナルのゆるみ、腐蝕などがある場合は湿過または布で清掃後、ターミナルにグリースを薄く塗布し緩付けてください。

- 電解液が不足した場合はサービス工場で調整してください。
電解液の標準比重は 1.290 (20°C) です。

○冷却水の交換



- ・ラジエータ下部のドレインコックおよびエンジン側面のドレインプラグをゆるめ排水した後、コックおよびプラグを締め、ラジエータ給水口より冷却水を注入してください。

- (1) 冷却水量 J3R形 10L
J52形, J54形 8L
(2) ドレインコック取付け位置
J3R形 エンジン右側
J52, J54形 エンジン左側

冷却システムの腐蝕防止のため冷却水には必ず純正の添加剤を規定量混入してください。

項目	純正添加剤	濃度	備考
防錆剤	ダイアタイン ラジエータコンディショナ	10%	夏期
不凍液(防凍剤入り)	ダイアタイン ロングライフクーラント	30%	オールシーズン

- ダイアタインロングライフクーラントは寒冷地では次の表により気温に応じて濃度を調整してください。

濃度 %	30	35	40	45	50	55
安全使用温度 °C	-11	-14	-21	-29	-33	-40

- 冷却水には水道水など軟水を使用し汚水や汚水はさけてください。

○ファンベルトの調整



ファンベルトのたるみはウォーターポンプ、プーリとゼネラータプーリの間を親指で押して約12~13mmになるようにロックナットをゆるめて調整します。

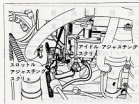
○スパークプラグの清掃 (ガソリン車)



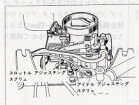
とう工工具のプラグレンチでプラグを取りはずし「プラグクリーナ」で清掃します。正常なプラグは電極部が黄褐色をしており電極物はありません。プラグすきまは0.7~0.8mmに調整してください。プラグはNGK B-4 (J22形はB-6R) を使用しています。なお、プラグのねじ部も清掃し、ガスケットを入れて確実に締付けてください。プラグコードのさし込みも確認してください。

- プラグクリーナは主なガソリンスタンドやカービルド工場にあります。

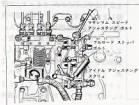
○アイドリング調整



J3R形



J52形



ガソリン車

アイドル アジャスタング スクリューを加減してエンジンが最も調子よく回る位置をさがします。(締付け後1~2回転戻し) つぎに スロットル アジャスタング スクリューでエンジン回転数を約 600rpm に調整します。

■ アイドリング調整は排気ガス等に影響しますので販売店・オーブ工場におまかせください。

ディーゼル車

アイドル ボックス ストップ ボルトのロック ナットをゆるめ、ボルトをねじ込めばエンジンの回転数は上り、戻せば回転は下ります。調整後は ロック ナットを確実に締付けてください。

アイドリング回転数 580~620 rpm

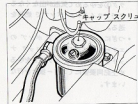
■ アイドリング調整はエンジンが暖った状態で行ってください。

○ヒュエル ストレーナ



ガソリン車

ストレーナ カップ 締付けねじをゆるめてカップを取りはずせばエレメントが取り出せます。交換後はエンジンを運転し濡れのないことを確認してください。なお、燃料中の水、ゴミがカップに溜ることがありますから点検、清掃してください。



ディーゼル車

ヒュエル フィルター ケースのキャップ スクリューをはずし蓋をとるとエレメントが取出せます。エレメント交換に際してはケース内面を必ず清掃してください。

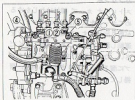
- (1) エレメントは乾燥することなく定期的に交換してください。
- (2) ヒュエル フィルターは 定期的にドレーン プラグを 強いて排水し、汚れの程度を調べましょう。
- (3) ヒュエル フィルター 交換時はエア抜きを行います。

○ヒュエル フィード ポンプ スクリーン清掃 (ディーゼル車)



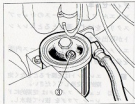
ヒュエル フィード ポンプ スクリーンを取り出し定期的に洗油で洗って下さい。

○燃料系統のエア抜き（ディーゼル車）

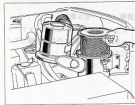


燃料を切らしたとき、またはヒュエルホースを取りはずしたときなどは必ずエア抜きを行なってください。エア抜きはつぎの順序で行ないます。

- ・プライミング ポンプ カバー①をはずす。
- ・プライミング ポンプ ハンドル②をねじ戻す。
- ・ヒュエル フィルタの エア抜きプラグ③をゆるめて気泡が出なくなるまでプライミング ポンプで 燃料を送る。
- ・つぎにインジェクション ポンプのエア抜きプラグ④⑤のロック ナットをゆるめた後、スクラムをゆるめ上記同要領にてエア抜きを行います。



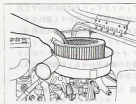
○エア クリーナ清掃



J3R形

エアークリーナ エLEMENTにゴミが付着するとエンジンの出力が低下するばかりか燃料消費の増大、排気ガスの有害成分の増大の原因となります。定期的に清掃しましょう。ELEMENTの清掃はクリーナ ケースのクランプ3コをはずすと、ケース上部がはずれELEMENTが取り出せます。ELEMENT内側からエアでホコリを吹きとばすか、板の上で軽く叩いてください。

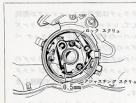
マニフェスト エレメント



■ (1) 往りの多い地区で使用される場合は清掃回数を増してください。

■ (2) J52形車はエアークリーナ 上部のナットをはずすと、クリーナ ケースの蓋がはずれます。

○ディストリビュータ（ガソリン車）



エンジンの点火性能を保持するためポイントの焼損、凹凸、各部のき裂を点検しましょう。ポイントが腐れている場合は細目のオイルストーンで磨いてください。ポイント すぎきはロック スクリューをゆるめアジャスタング スクリューで約0.5mmに調整します。

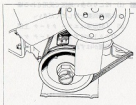
■ ポイントすぎき調整後は必ず点火時期を点検してください。

○点火時期の調整（ガソリン車）



クランク プーリを回し No.1シリンダの圧縮上死点前 5° の位置（クランクプーリの切欠きとタイミング ギヤ カバーのマークを合せる）と自動的にてます）に合せます。

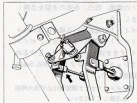
つぎにディストリビュータのクランプ スクリューをゆるめ、ディストリビュータ全体をロータ アームが キャップ内の No.1 端子方へ向きポイントが弱き始める位置まで回し固定します。



ディストリビュータは右に回すと点火時期は進み左に回すと遅れます。なおJ52形の点火位置は上死点前 8° (クランク プーリの切欠きとタイミング ギヤ カバーのTOPマークから4番目の線を合わせると自動的に出る) に合えます。

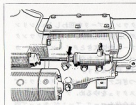
- (1) 点火時期調整を行なう場合はあらかじめポイントすきを0.5mmに合せた後行なってください。

○クラッチ ペダルの調整



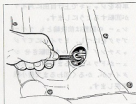
クラッチは使用中フェーシングが磨耗して、リリース ベアリングとリリース レバーのすきまが減少し、クラッチ ペダルの遊びが少なくなります。ペダルの遊びは、リリース シリンダのアジャスタング ロッドおよびマスタ シリンダ プッシュ ロッドで調整します。

- マスタ シリンダ ピストンとプッシュ ロッドのすきまが0~0.05mm (ペダル先端で1~3mmの遊び) となるようマスタ シリンダ プッシュ ロッドのロック ナットをゆるめて調整します。
- つぎにクラッチ ペダルの遊びが40~45mmになるようリリース シリンダのプッシュ ロッドを調整します。



調整は、ペダルを踏下げる方向に、マスタ シリンダのプッシュ ロッドを調整します。

○クラッチ系統のエア抜き



ガソリン車

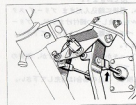


ディーゼル車

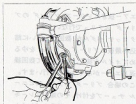
エア抜きはリリース シリンダのブリーダ スクリューで行ないます。クラッチ ペダルを数回いっばいに踏み最後にブリーダ スクリューをゆるめてオイルを抜く、同様にして数回繰返しエアがなくなるまで行います。この場合 ブリーダ スクリューにビニール チューブを付け、その端をブレーキオイルを入れたビンに差込んでおく、とエアの抜ける状態がよく分ります。

- (1) リザーバ タンクのオイルが満ちていないうちにオイルを補充してください。

○フット ブレーキ調整

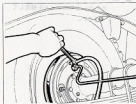


- ペダルの遊び調整
ペダルの上部にあるアジャスタング ボルト (ストップ ランプ スイッチ) でブレーキ ペダル面がクラッチ ペダル面と同じ高さになる様に調整してください。
- ペダル上部の マスタ シリンダ後端のロック ナットをゆるめ、プッシュ ロッドでブレーキ ペダルのあそびを10~15mmに調整します。プッシュ ロッドはねじ込み(短くする)とあそびは大きくなり戻せば少なくなります。



- シューとドラムのすきま調整
- 車体をジャッキで上げ自由にタイヤが回転するようにします。
- シューの調整は前後輪とも、カバープラグをははし、ドライブにてアジャスタングホイールを回転させシューがドラムに当たるまで張り、次にタイヤが、かるく回わるまで最小限度戻します。

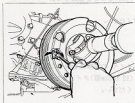
○ブレーキのエアー抜き



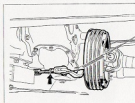
- ブレーキシューの調整後もなおペダルの踏代が少ない場合、ブレーキペダルにスポンジ現象がある場合、ブレーキ配管をはしたため、配管内に空気が入ったときは次の要領でエアー抜きを行なって下さい。
- パッキングプレート裏面のホイールシリンダのアースダスタラエにビニールホースをつけ、その端はブレーキオイルを入れたビンに差込んでおきます。

- ブレーキペダルをゆっくり数回踏込み、最後に踏込んだままブリーダスタラエを少しゆるめ、ビンに流れるオイルを点検しつつ締め付けますが、ブリーダスタラエを締め付けた後にブレーキペダルを離さないようにして下さい。
- この作業は気泡が出なくなるまで続けます。
- エアー抜きはマスターシリンダより遠いブレーキから順に行ないますが、作業の途中でオイルを切らさないように注意して下さい。
- 最後にリザーバタンク内のオイルを点検し、不足の場合は補充して下さい。

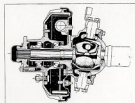
○ハンドブレーキ調整



- ハンドブレーキを戻した状態にします。
- ブレーキドラムの穴とアジャスタングホイールの位置を合せドライブでアジャスタングホイールを外側(矢印方向)に回しシューがドラムに軽く当たった位置で止めます。
- つぎにアジャスタングホイールを7ノッチ戻せば正しい調整ができます。
- 上記調整後ハンドブレーキレバーの引き代が60mmになるようワイヤーケーブルの長さを調整します。



○フロントホイールベアリングの調整



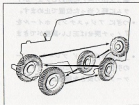
- フロントホイールが床面から離れるまでジャッキアップします。
- ハブキャップおよびドライブフランジを取りはずします。
- ホイールベアリングナットのロックワッシャの折曲げを延ばしホイールベアリングナット(ブタ)およびロックワッシャを取りはずします。

- ホイールベアリングナット(インナ)を標準トルク 12.4kgm で締付けた後1/4回転戻します。
- つぎにロックワッシャを介してホイールベアリングナットを12.4kgm で締

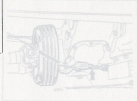
付けホイールを手で回わしがたなく軽く回ることを確認した後ロックワッ
シャを完全に折上げます。

■ ロック ワッシャは必ず新品と交換してください。

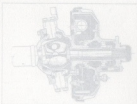
○タイヤの位置交換



タイヤの偏摩耗を防ぐため定期的に
(12 000km毎)タイヤの位置交換をして
ください。



調整のてびで れでせよ ビーモイロで○



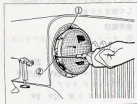
調整のてびで れでせよ ビーモイロで○

調整のてびで れでせよ ビーモイロで○

調整のてびで れでせよ ビーモイロで○

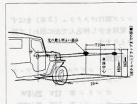
5.6 ランプの調整、交換

○ヘッド ランプの調整



調整は空車状態とし運転者1名乗車の
とき前方にスターリン(壁などを利用)
をおきヘッドランプを上向きにして
つぎのように調整します。

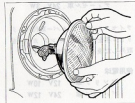
- ・左右調整のスタリユ③で照度中心が
平行になるよう調整する。
- ・つぎに上下調整スタリユ①で中心が
地面より892mmになるよう調整し
ます。



調整のてびで れでせよ ビーモイロで○



○ヘッド ランプの交換



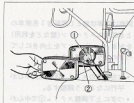
ヘッド ランプはシールド ビーム式で
すからヘッドランプユニットアセ
ンブリで交換して下さい。
ヘッドランプドアおよびリングを取
りはずして、ヘッドランプを 手前
に引出しソケットを取ります。

使用電球

ガソリン車 12V 50/40W

ディーゼル車 24V 75/55W

○フロント ターン シグナル ランプの交換



ランプ表面の碍付けスクリュー (4本) をはずし電球を少し押込んで左に回わして抜きとります。

使用電球

① ターン シグナル & クリアランス ランプ

ガソリン車 12V 25/8W

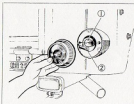
ディーゼル車 24V 25/10W

② パーキング ランプ

ガソリン車 12V 3W

ディーゼル車 24V 3W

○リヤ ターン シグナル ランプの交換



レンズ取付けスクリュー (3本) をはずし電球を少し押込んで左に回わして抜きとります。

使用電球

① ターン シグナル & ストップ・ターナル ランプ

ガソリン車 12V 25/8W

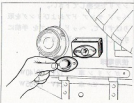
ディーゼル車 24V 25/10W

② パーキング ランプ

ガソリン車 12V 3W

ディーゼル車 24V 3W

○ライセンス ランプ



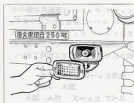
ライセンス ランプ カバー取付けスクリュー2本をゆるめて ランプ カバーを取外した後バルブを交換します。

使用電球

ガソリン車 12V 10W

ディーゼル車 24V 12W

○バック アップ ランプの交換



レンズ取付けスクリュー (2本) をゆるめレンズを取りはずします。バルブを押込んでわずかに左に回わして抜きとります。

使用電球

ガソリン車 12V 15W

ディーゼル車 24V 10W

○パネル ランプの交換



パネル ランプ カバーを平前に強く引き抜き、ランプ バルブを少し押込んで左に回わして抜きとります。

使用電球

ガソリン車 12V 5W

ディーゼル車 24V 6W

○インジケータ ランプ



ターン シグナル および ハイ ビーム インジケータ ランプの交換はインストルメント クラスタ裏面よりソケットを抜いてバルブを交換します。オイル フィルタおよびブレンキ インジケータ ランプは、ダッシュ パネル裏面よりソケットをはずしバルブを交換してください。

使用電球

ガソリン車 12V 3W

ディーゼル車 24V 3W

○ヒューズの交換



ヒューズ ボックス は運転席右側のウォールカバーに装着されております。またヒューズ ボックス カバーには各系統別部品名およびヒューズ容量が記載されておりますのでご利用下さい。

使用ヒューズ 15A 2本
20A 3本
スベア ヒューズ 15A, 20A
各1本

■ ヒューズ溶断の場合は原因を確かめた上で交換してください。



ヒューズボックスの構造



6 故障が起きた時には

ちょっとした故障でも早期に見出す
ように心掛け、大きな故障にならない
ように修理してください。

つぎの表は各種の故障の原因と、その
処置を説明したものです。簡単に修理で
きない場合はサービス工場へ故障状況を
連絡し、修理をお願いします。



▼スタータ スイッチを始動の位置にしても、エンジンが始動しない

故障状況		原 因	処 置
スタータ モーターが回らないか、回っても回転が遅い	電 圧	バッテリーとスイッチの接続がしてない	接続する
	電 気	バッテリー端子のはずれ、ゆるみ、腐食	腐食部分を完全に清掃後、確実に取り付ける
	系	バッテリーの放電	充電する
	統	スタータ スイッチの故障	サービス工場へ
		スタータ モーターおよびスタータ リレーの故障	サービス工場へ
		エンジン オイルの粘度不適当	適正なものに交換
(ガソリン車)	☆	スパーク プラグまで電気が来ていますか。(スパーク ナストで検査)	
スタータ モーターが回っても、エンジンが始動しない	電	スパーク プラグまで電気が来ないとき	
		1 次線各線のゆるみ、断線	確実に締付けまたは交換
	電	高圧コードの張りまたはノイズ、サブリサ部のゆるみ	張りを調整させる、または確実に取り付ける
		高圧コードの断線	交 換
	統	スパーク プラグまで電気が来ているとき	
		ディストリビューターまたはスパーク プラグにおけるコードの差し込み違い	正誤に差し込む

故障状況	原因	処置
(ガソリン車) スタータモーターが回っても、エンジンが始動しない	点火時期のくるい	サービス工場へ
	スパークプラグのよごれ、スパーク不良	清掃して、スパークを正様に調整
	スパークプラグの不良	交換
	燃料がフロートレベルより低い	補給
燃料系	タンクに燃料がない	補給
	ストレーナーおよびヒューズポンプのつまり	清掃
	ヒューズポンプおよびキャブレータの不良	サービス工場へ
	混合気が薄い(寒い時)	チョークをセットしましたか、寒い時はアイドセルベダルをいっばい踏んでから、スタータスイッチを回してください
燃料系	燃料がフロートレベルより高い	
	オーバーフロー	10~15分間停ってから始動する プラグがぬれている場合は乾燥させる フロート・チャンパの不良はサービス工場へ
	キャブレータの不良	サービス工場へ
	エア・クリーナエレメントのつまり	清掃
その他	バルブ・クリアランスの不良	サービス工場へ
	エンジン圧縮不良	サービス工場へ
他	エンジンの冷えすぎ	ラジエータに水をいれるかエンジンオイルをあたためる
	タンクに燃料がない	補給
(ディーゼル車) スタータモーターが回っても、エンジンが始動しない	フォワード・ポンプ入口のストレーナまたは燃料フィルタのつまり	分解、清掃または交換する
	燃料系統のエア抜き不良	エア抜く
	燃料配管中でエアを吸入する	配管部の増設および破損部品を交換する

故障状況	原因	処置
(ディーゼル車) スタータモーターが回っても、エンジンが始動しない	燃料噴射ポンプの機能不良	サービス工場へ
その他	噴射時期のくるい	サービス工場へ
	バルブ・クリアランスの不良	サービス工場へ
	エンジン圧縮不良	サービス工場へ
	バルブ・クリアランスの不良	サービス工場へ
	グロウ・プラグが劣化しない	分解交換する

▼エンジンが始動したが調子が悪い

故障状況	原因	処置
(ガソリン車) エンジンが低速回転すると停止する	アイドリングの不良(低すぎ)	サービス工場へ
	プラグの欠火	プラグ交換
	ディストリビュータ不良	スパークの調整、コンタクトポイントの研磨等はサービス工場へ
	燃料に水がまじり失火する	パイプ、ストレーナ、キャブレータ、ポンプ、タンクを清掃する サービス工場へ
	キャブレータの不良	サービス工場へ
	点火時期の不良	サービス工場へ
	バルブ・クリアランスの不良	サービス工場へ
	エンジン圧縮不良	サービス工場へ
	アイドリングの不良(低すぎ)	ヒューズ(スコットル)ボタンで調整する
	燃料噴射ポンプの不良	サービス工場へ
(ディーゼル車) エンジンが低速回転すると停止する	噴射時期の不良	サービス工場へ
	バルブ・クリアランスの不良	サービス工場へ
	エンジン圧縮不良	サービス工場へ
	プラグのスパーク不良(ガソリン車)	スパーク調整
回転が円滑でない	点火時期不良	サービス工場へ

故障状況	原因	処置
回転が円滑でない	バルブ クリアランスの不良	サービス工場へ
	キャブレタの不良 (ガソリン車)	サービス工場へ
	燃料フィルタのつまり (ディーゼル車)	清掃する
	燃料ポンプ不良 (ガソリン車)	サービス工場へ
	燃料配管のゆるみまたは破損	増締めまたは部品交換する

▼出力が足りない

原因	処置
(ガソリン車)	
エア クリーナのつまり	エレメントの清掃または交換
キャブレタ不良	サービス工場へ
燃料系統のつまり	サービス工場へ
バルブ クリアランスの不良	サービス工場へ
点火時期の不良	サービス工場へ
コンタクト ポイントまたはプラグのスキマ不良または破損	サービス工場へ
エンジン圧縮不良	サービス工場へ
マフラのつまり	清掃
(ディーゼル車)	
エア クリーナのつまり	エレメントの清掃または交換
噴射ポンプ不良	サービス工場へ
燃料系統のつまり	サービス工場へ
バルブ クリアランスの不調	サービス工場へ
噴射時期の不調	サービス工場へ
エンジン圧縮不良	サービス工場へ
マフラのつまり	清掃

▼エンジンがノックする

原因	処置
(ガソリン車)	
燃料不良	オクタン価75以上のものと交換する
シリンダ内にカーボンが堆積	サービス工場へ
燃料の種類	サービス工場へ
点火時期の不良	サービス工場へ
コンタクト ポイントのスキマ不良	サービス工場へ
エンジン圧縮不良	サービス工場へ
(ディーゼル車)	
燃料不良	セタン価45以上のものと交換する
シリンダ内にカーボンが堆積	サービス工場へ
噴射ポンプの不良	サービス工場へ
ノズル不良	サービス工場へ
噴射時期不良	サービス工場へ
エンジン圧縮不良	サービス工場へ

▼エンジンの排気が白色または青色

原因	処置
潤滑油容量が多すぎる	規定量に調整する
潤滑油粘度が低すぎる	季節に合ったオイルを入れる
水漏れが低すぎる	ラジエータ カバーを調整する
エア クリーナのつまり (ディーゼル車)	エレメントを清掃または交換する
圧縮不良	サービス工場へ
点火時期不適 (ガソリン車)	サービス工場へ
燃料噴射時期不適 (ディーゼル車)	サービス工場へ

▼エンジンの排気が黒色または濃灰色

原因	処置
燃料不良	正規燃料と交換する

原 因	処 置
圧縮不良	サービス工場へ
バルブクリアランス不調	サービス工場へ
エアリーナつまり(ガソリン車)	エレメントを清掃または交換する
キャブレターの不良(ガソリン車)	サービス工場へ
噴射ポンプの不良(ディーゼル車)	サービス工場へ

▼燃料消費量が多い

原 因	処 置
燃料不良	正風燃料と交換する
冷却水の温度が低すぎる	ラジエータカバーで調整する
エアリーナつまり	エレメントを清掃または交換する
タイヤ空気圧不足	規定空気圧にする
点火時間不良(ガソリン車)	サービス工場へ
噴射時間不良(ディーゼル車)	サービス工場へ
スパープラグの不良(ガソリン車)	サービス工場へ
ノズルの不良(ディーゼル車)	サービス工場へ
エンジン圧縮不良	サービス工場へ
バルブタイミング不良	サービス工場へ
エンジン運動部分の潤滑不足または摩 損大	サービス工場へ
クラッチの滑り	サービス工場へ
ブレーキのひきずり	サービス工場へ
足廻りの調整不良またはベアリング破損	サービス工場へ

▼エンジンオイルの消費量が多い

原 因	処 置
使用オイルが適合でない	正風オイルに交換する
オイルの量が多すぎる	正風オイル量にする

原 因	処 置
エンジンの過熱	アクセルペダルを踏み込みすぎない ように注意する
油漏れ	サービス工場へ
オイルの交換時期が遅すぎる	指示どおりに交換する
機械潤滑をしていない	指示どおりに行なう
ピストンリングが摩耗している	サービス工場へ

▼油圧不良

原 因	処 置
オイル不足	正風オイル量にする
オイル粘度不良	正風オイルに交換する
油管の破損または接続部の油漏れ	接続部の増締めまたは部品交換する
油圧スイッチの不良	サービス工場へ
オイルポンプの作動不良	サービス工場へ
油圧調整弁の不良	サービス工場へ
油圧ランプの配線不良	サービス工場へ
ベアリング摩耗による油切れ大	サービス工場へ

▼発進しにくい

故障状況	原 因	処 置
車 が 重 い	サイドブレーキがきいている	サイドブレーキをはずす
	ブレーキシューの隙間が適正でない	正風隙間に調整する
	足廻り調整不良またはベアリング破損	サービス工場へ
	タイヤの空気圧が低すぎる	規定空気圧にする
エンジン回転が上がっても車速が上がらない	クラッチが滑る	サービス工場へ

▼ハンドルの調子が悪い

故障状況	原因	処置
ハンドルが重い	ダイヤケースにオイルがない	規定量にする
	ボール・ベアリングの破損	サービス工場へ
	ウオーム、ボール・ナットの磨耗およびボールの破損	サービス工場へ
	前輪のタイヤ圧低すぎ	規定値にする
	ホイール・アライメントのくずれ	サービス工場へ
ハンドルの揺れが大きい	各部の調整が固すぎる	サービス工場へ
	各部の摩耗、とくに制動した部分がある	サービス工場へ
走行中ハンドルが振れる	各部の摩耗による遊びが多すぎる	サービス工場へ

▼変速しにくい

故障状況	原因	処置
ダイヤがシフトしない	クラッチの調整不良	サービス工場へ
	ミッション自体の故障	サービス工場へ
チェンジ・レバーの操作がはっきりしない	スプリング折損、摩耗大	サービス工場へ

▼振動が大きい

故障状況	原因	処置
上下振動が大きい	タイヤ空気圧過大	規定空気圧にする
	ショック・アブソーバ不良	サービス工場へ
	スプリング折損	サービス工場へ
エンジン振動	防振ゴム不良	サービス工場へ
プロペラ・シャフト振動	プロペラ・シャフト曲り、ジョイントのガタ	サービス工場へ

▼フット ブレーキがきかない

故障状況	原因	処置
ききが悪い	タイヤ空気圧過大	規定空気圧にする
	ライニング不良、油付着	サービス工場へ
片ぎきする	ライニング当り不良、油付着	サービス工場へ
ペダルの遊び不適正	ロッド調整不良	サービス工場へ
ペダルがふわふわする	空気の混入	サービス工場へ

▼電気関係の故障

故障状況	原因	処置
パイロット ランプが点灯したまま消えない	光電不足	サービス工場へ
	ベルト切断	ベルト交換
	メータの不良、配線不良	サービス工場へ
照明灯類および信号系の不灯	バルブが切れている	ボルト・ワット数に注意して交換する
	ヒューズの切断	アンペア数に注意して交換する
	配線不良	端子のゆるみ断線等を修正する
	スイッチ類の不良	サービス工場へ
	ワイパ、ホーン不良	サービス工場へ